

Q19 製造業の実地棚卸における留意点を教えてください。

A19 製造業の実地棚卸では、原材料、仕掛品、製品のそれぞれが工場や倉庫のどこに保管されているのかを明確化したうえで、それぞれの特性に応じて事前準備やカウント方法を工夫することが重要です。

解説

・原材料、仕掛品、製品のそれぞれについて留意すべき点を例示すると、以下の通りです。

i) 原材料

- ①保管場所が明確に定められていることが必要です。
- ②出荷ヤードなどに検収モレの原材料が残っていないことを確かめる必要があります。

ii) 仕掛品

- ①複数の工程が続く場合、実地棚卸時に、各工程の途中には仕掛品をなるべく残さないように運用することで、加工進捗度の測定が容易になります。やむを得ず各工程の途中に仕掛品が残る場合には、加工進捗度の測定方法を定める必要がありますが、実務上、工程の途中の仕掛品は50%の加工進捗度と仮定することもよく行われます。
- ②多数の部品を組み付けていくアッセンブリー工程の場合、仕掛品を多数の部品の集合（アッシー）と捉えてカウントすることが可能です。この場合、工程のどこに、どのようなアッシーが存在するのかを事前に定義しておくことが必要になります。
- ③繊維・食品などの製造業や、工程に鋳造、鍛造、プレス、溶接、塗装を含む場合など、仕掛品に部品や原材料の原形が残らない場合、工程ごとに仕掛品の姿が変わり、カウントの単位も変化する考えられます。そのため、工程ごとの仕掛品のカウント方法を事前に明確化しておく必要があります。

iii) 製品

- ①製品完成後、製造部門から営業部門への内部振替が行われる場合、振替の過程で、製品在庫のカウントモレや二重カウントが生じないように留意する必要があります。
- ②顧客に製品を受け渡す場合、所有権の移転時点を明確化する必要があります。